

禅定寺 宝物と芸術品

禅定寺の宝仏殿には、平安時代（794－1185）のいくつかの国指定重要文化財があります。最も貴重なものとして、木像の「十一面観音立像」があります。991年に制作され、当初からの本尊と考えられており、そこから正式な名前が得られたと考えられています。高さが286.4cmあり、京都地域で一番大きな立像です。木像の柔らかな顔と衣のひだは、古い時代の模様の思い起こさせますが、浅めの彫りは、十世紀後半の特徴です。

そのほかの重要文化財としては、以下のものがあります。日光菩薩（日光の仏様）、月光菩薩（月光の仏様）、四天王、文殊菩薩騎土像（獅子に乗った仏様）、地藏菩薩踏下蔵（延命地藏）、大威徳明王（死の征服者）。